

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200162		
法人名	社会福祉法人くらしのハーモニー		
事業所名	ハーモニーやまはた		
所在地	京都府宇治市木幡北山畑23-1		
自己評価作成日	平成28年 3月 28日	評価結果市町村受理日	平成28年 7月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.rokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2691200162-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kai.rokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2691200162-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流センターを活用して、家族と一緒に行事に参加できる取り組みを行っている(夏祭り、クリスマス会等)</li> <li>・住み慣れた地域または、その近くでご利用者自身が安心して生活している事に対して、家族からも安心して頂いており、また週末に限らず平日にもよく面会に来て頂いており、足を運びやすい施設である。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ハーモニーやまはたは、1階に小規模多機能型居宅介護、2階に認知症対応型グループホームを併設して、2014年12月に開設した事業所です。主要地方道路沿いに立地していますが、騒音も聞こえず、ベランダからの景色は山間が見えたり、住宅の屋根が見えたり、住み慣れた地域の景色となっていました。「今、ここで生きる 街とともに、人とともに」という事業所独自の理念のもと、利用者とその家族に寄り添い、個別対応で公共交通機関での外出支援や銭湯に行くなど自分らしい生活ができるような支援をされています。また、事業所の1階にある地域交流センターと喫茶コーナーを活用して映画上映会などの開催で地域と交流を図られていました。</p> <p>グループホームの各ユニット名は、利用者が住所を記入するときに書きやすいようにと職員で話し合っ、1丁目・2丁目とつけられています。共有スペースは、孤立もせず人の声や視線が気にならないようなデッドスペースが設けられていたり、随所に工夫されていました。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【住み慣れた地域・住み慣れた自宅で、強みが生かせ、役割を持ちながら、その人らしい生活が続けられるよう支援する】を目標に、	事業所独自の理念「今、ここで生きる 街とともに、人とともに」を掲げ、年度初めの法人全体研修や毎月のミーティングで振り返りを行うなど常に意識するようにしている。理念の実践として自分らしい生活ができるよう支援(外出や食事など)につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のサロン等への出前体操 ・映画上映会や喫茶の一般開放 ・夏祭り参加への呼びかけ ・地藏盆等の地域行事の準備手伝い	町内会の夏祭りに参加したり、事業所の行事で交流をしている。地域夏祭り際には子供神輿の来訪があり、入居者にとって楽しむ機会となっている。また、事業所の1階にある地域交流センターと喫茶コーナーを活用して映画上映会などを開催して地域の方との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症サポーター養成講座の開催 ・27年度は1度しか開催出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一度、運営推進会議の開催	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族、近隣住民、地域包括支援センター、町内会長、市の担当課、協力医療機関等多様なメンバーが参加して活動報告や意見交換を行っている。出された意見をもとに対応した事例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・月1回の宇治市介護相談員派遣事業の活用 ・	運営推進会議や地域ケア会議を通じて日頃の取り組みの報告、意見交換を行っており、顔の見える関係を構築している。また、月1回の市の介護相談員派遣事業も活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員研修にて、虐待・身体拘束についての理解を促している(毎年)。 ・施設の玄関については防犯上の理由から夜間施錠しているが、2階にあるグループホームの玄関は終日開放している。	毎年、法人で身体拘束等に係る職員研修会を開催している。また、身体拘束の具体的な行為として施錠等の意味についても理解に努めている。原則、外部への出入り口には夜間以外施錠がされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員研修にて、虐待・身体拘束についての理解を促している(毎年)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員研修にて、尊厳や権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、十分な説明が出来るよう、余裕をもって時間を確保している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会の開催、運営推進会議への出席の呼びかけを行っている。 ・苦情も含め、施設の改善、ケアの質向上につながるものとして捉えている。	運営推進会議や年2回の家族会やクリスマスなどの行事、面会の時などを活用して、家族とのコミュニケーションを図り、話しやすい関係づくりに努めている。苦情もあがることがあり迅速に対応をしている。また、第三者として介護相談員や傾聴ボランティアに来てもらい利用者が意見や要望を外部に表せる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・施設全体やグループホームのミーティングの開催にて、職員が意見を言える機会を設けている。	職員会議やグループホーム会議には、管理者が出席し、意見や提案を聞く機会がある。それ以外にハーモニーやまたは全体会議、エリア会議が体系的に整備されている。また、年2回管理者による個別面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・成長記録シートの活用と、半年に一度、上長との面談の機会確保。 ・28年度より、キャリアパス制度開始。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部および外部研修への参加呼びかけ ・内部研修における講師役を担当する機会の創設		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修も含め、法人内の他施設職員との交流、情報交換の機会を設けている ・他法人との交流の機会が少なく、積極的に交流を作っていく必要がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・インテークの実施にて、本人像を把握するよう努めている ・入居後も関わる時間を意識し、要望、困り事などの課題をプランに反映している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前申込み時やインテーク時に、しっかりと聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用希望の面接時に、他施設の利用の検討、助言なども視野に入れて、情報収集を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご利用者の持っている力を活用し、食事、洗濯、片付け、掃除などの役割作りに生かし、強みを引き出している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時などに、生活の様子を伝え、情報共有をするように努めている ・家族とご利用者本人と一緒に外食・外出する機会を作ったり、外出の際の支援なども行なっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・以前に参加していた社交ダンスサークルへの参加	地域や馴染みの人とのふれあいを大切にして、本人の行きたいところなどへ出かけている。交流センターでのダンスサークルへの参加、入所される前に通われていた教会への礼拝、自宅を見に行くなど職員が同行している。また、知人が訪問されたり一緒に近隣のファーストフード店へ出掛けるなど関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・小グループでの活動や、コミュニケーションの仲介など、良好な関係作りが出来るよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現時点ではサービス終了者がいない為、未実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・モニタリングを毎月実施し、必要に応じて検討 ・本人のやりたい事などを活動に実践(外出、外食、趣味の継続など) ・ケースを担当する職員が中心となりながら、ユニット全体で情報共有できるよう工夫	各利用者に担当者を決めて支援を行っている。日々の中で利用者一人ひとりの思いや意向の把握をし、具体化に努めている。コンビニでお酒を購入したり、個別対応で銭湯へ行くなど、家族だけでは難しいような外出などを実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・インテークや日常会話での聞き取りで、本人や家族などから情報収集し、記録に残すようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・月1回のモニタリング実施		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画作成担当者やケース担当の職員だけでなく、常勤職員全員からの意見集約を、プラン更新時に実施している。	本人、家族の意見や思いが反映できるようにサービス担当者会議やミーティングを必要に応じて行っている。定期的に職員全体から意見集約をしてモニタリング等を行っている。個別支援計画と日常の支援が連動することを徹底しており、記録に落とし込んで共有化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・電子媒体での記録を通じ、いつでも記録が見ることが出来る。重要な記録や伝えたい内容などは、印刷するなどして、共有しやすいようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・未実施であるが、外泊に不安がある家族様の意向しだいでは、一緒に外泊できるような取り組みも考えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・傾聴ボランティアの活用 ・地域の美容室利用 ・		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・往診、受診対応の付き添い ・かかりつけ医に、服薬・体調等の相談を適宜おこなっている ・定期往診以外にも、臨時での往診等も対応して頂いている	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は家族との交流と捉え、家族と一緒に通院してもらい報告を受けている。往診時は職員が同一敷地内の小多機の看護師と同席し共有している。夜間の急変時の体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同一敷地内の小多機の看護師と相談、情報共有をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時の迅速な情報伝達とこまめに情報交換をおこない、退院・再入居に向けてのカンファレンス実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期についての家族からのニーズは多くあるが、まだ具体的な検討には至っていない。ターミナルケアの研修などを今後予定している。	家族には入居時に事業所で対応できることを説明している。家族の思いの確認を行い共有しているが、契約書・重要事項説明書・意志確認書の作成には至っていない。ターミナルケアについては事業所内で看護師による研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員研修にて、緊急時対応の訓練をおこなっている ・AED設置済み。使用の訓練を今後予定している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防・避難訓練の実施	マニュアル、連絡体制を整え、オープン時に1回、秋と3月に昼間想定避難訓練を行っている。うち1回は消防署の協力を得て地域にも声をかけて行っているが、消防署と地域との協力体制が課題である。備蓄は法人で行っている。	地域の協力体制については町内会でもお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけてはいかがでしょうか。運営推進会議に消防署の方に参加してもらい、事業所の図面で利用者の状況を伝えておくなどされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・研修会の実施と、言葉遣いの意識づけをおこなっている	事業所内で職員が講師となり、2人1組でロールプレイで行うなど、わかりやすい研修を実施している。職員は丁寧で穏やかな言葉遣いをし、利用者にさりげなく寄り添ったケアを心掛ける姿勢が見受けられた。	配慮されたつくりになっていますが、浴室脱衣所の扉にのれんをするなど開閉時に中が見えない工夫をされてはいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自分から意見や希望を言える人はもちろんだが、言えない人の希望を聞けるよう、関係作りを意識している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事の時間、起床・就寝時間などは個々の生活リズムに合わせている ・集団での活動に合わせている部分も多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・化粧水やヘアクリームなど、本人の好みの物を使用して頂いている ・その日に着る衣服の選択を、本人にして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事作りに於いて、盛り付けを中心に手伝って頂いている。調理の手伝い(包丁使用、火加減や味見)も、安全に十分に配慮し、本人の力を生かして頂いている。	「食べたい」を大切に、決められた時間に食べてもらうのではなく、本人が食べたい時に食べられる支援をしている。行事食を楽しんだり、地域や家族に声をかけて流しそうめんを行なった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量の少ない方には、補食や栄養補助食品等を活用して、必要なカロリーを補っている ・食事形態を必要に応じて見直し、摂取量アップにつなげている ・水分摂取がしやすいよう、手の届くところに急須などを配置。必要に応じて、日中、夜間の配茶も対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・歯科との連携、歯科衛生士による口腔ケアの指導の機会を持ち、本人の口腔内の状態に合わせた口腔ケアを実践している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄が目指せるよう、早めにサインに気付けるようにし、トイレで腹圧がかかりやすいように声掛け、座位の確認、落ち着いて排泄できるように焦らせない声掛けの工夫をおこなっている ・下剤の調整で排便リズムを整えている	法人のこだわりで男性用のトイレを設置している。自宅にはトイレの表示は無いという思いから、あえて大きく表示していない。排泄パターンやサインは担当職員を中心に情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>水分摂取量の把握</li> <li>乳製品やオリゴ糖などの活用</li> <li>必要に応じて、下剤の使用・調整</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>午前午後など、本人が入りやすい時間を選んで頂いている</li> <li>安全に配慮しながら、本人のペースで入浴して頂いている</li> </ul>	2ヶ所の隣り合った浴室は、脱衣所が行き来できる設計になっている。また浴室内は、左右逆の設置になっており、片麻痺がどちらでも対応できるように配慮されている。利用者が希望する時間に回数も自由に入浴している。利用者と職員が1対1になれる時間として捉え、話を聞きとっている。柚子湯をしたり、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの生活習慣から、生活リズムを確認</li> <li>居室の室温管理、布団や寝間着の検討をおこなっている</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>配薬マニュアルを見直し、注意すべき点を明確にし、周知徹底にて誤薬防止に努めている</li> <li>処方内容の変更時の伝達の徹底</li> <li>看護師や主治医との情報交換</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団でのレクリエーションと個別または小グループでのレクリエーションなど、一律の活動だけにならないようにしている。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニへの買い物や、ファーストフード店への飲食の付き添い、見守り。</li> <li>近隣への散歩や屋外での日光浴の機会確保</li> </ul>	一人ひとりの習慣や楽しみに合わせてコンビニへの買い物や友人とファーストフード店へ出かけたりしている。職員が利用者の環境の把握にもなるので自宅へ寄り、荷物を持ち帰ったり、衣替えなどを行っている。個別対応で公共交通機関を利用した外出支援を行ったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物、飲食時の支払いの見守り、支援の実施</li> <li>買い過ぎにならないよう、購入物品の把握</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>プライバシーや個人情報にも配慮しながら、必要に応じて実施している</li> </ul>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自然光の取り入れ、見通しの良い共用空間の工夫をおこなっている ・ベランダ等で植物を育て、季節が分かるようにしている	共有の空間は自然光が取り込まれ、全体が見渡せるようになっている。浴室の脱衣場からトイレへアプローチできるなど工夫された作りになっている。孤立もせず人の声や視線が気にならないデッドスペースが設置されている。随所に工夫された設計になっている。フロアの飾りつけに季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファやラウンジの設定 ・座席の配置の工夫をおこない、馴染みの関係が保てるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具やリネン類の持込み、写真や飾りなどの持参をお願いしている。 ・必要に応じて法人内のリハビリ職員とも情報交換し、動線や身体の状態にも配慮した配置にするようにしている。	写真や好みのものが持ち込まれ、それぞれの居心地の良さに配慮している。居室の入り口には、名前だけでなく小さな棚が設けられ、本人の作品や行事での賞状などが飾られている。洗面台は、部屋にこもってしまわないようにという配慮から、共有スペースに設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりの設置、本人に合った椅子や机の高さの調節 ・		